

2016.9.1 第156号 **ながの**
社会福祉士会 NEWS

■発行：公益社団法人長野県社会福祉士会
 会長：三村仁志
 ■編集：広報編集委員会
 ■事務局：〒380-0836
 長野市南県町685-2 長野県食糧会館 6 F
 ■発行部数：2,200部
 ■TEL：026-266-0294
 ■FAX：026-266-0339
 ■E-mail：info@nacsww.jp
 ■HP：https://nacsww.jp/

目次	■「生命の尊厳の冒瀆」県社会福祉士会が会長声明 …… 1	■基礎研修 42人が修了!!・「私の地区の学習会」 …… 7
	■災害福祉支援フォーラムを開催 …… 2～3	■信州ぐるっと!! …… 8
	■特集「大規模災害に社会福祉士は どう向き合うべきか？」 …… 4～5	■リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～ …… 8
	■研修委員会よりお知らせ …… 6	■今後の予定 …… 8
		■編集後記 …… 8

Nagano Association of Certified Social Workers

「生命の尊厳の冒瀆」県社会福祉士会が会長声明

表題は、7月26日未明、神奈川県相模原市の障がい者支援施設において、入所者19人が殺害され、26人が重軽傷を負わされるという衝撃的な事件が起きたことに対して会長声明を発信した際の信濃毎日新聞の見出しです。事件から1ヶ月余経過した今日、連日リオのオリンピック・パラリンピック報道等もあって、あの事件は忘れ去られようとしています。しかし、福祉専門職である私たちは決して忘れてはならないと思います。この事件の問題・課題等を考えるために「津久井やまゆり園の事件について」の本会会長声明を紹介します。

津久井やまゆり園の事件について

<前略>

この事件は、障がい者に対する究極の人権侵害であり、虐待であり、生命の尊厳を冒瀆するものです。この行為を私たちは断じて許すことが出来ません。

福祉の担い手であったはずの男性がこのような事件を引き起したことについて、日本の福祉の脆弱さ・未成熟さを思わざるを得ません。とりわけ、男性が元職員であるという背景を考えると、労働環境や人材育成までも含めた、日本の福祉現場の危機的な状況が露呈したものと捉えられます。

しかしながら私たちは、重度の重複障がいを持ちながら懸命に生きる人々のそばにいて、命の素晴らしさ、人間の尊厳の素晴らしさを深く認識しています。

障がい者を蔑視する考えは、心のバリア（差別意識）そのものであり、社会的障壁そのものです。人を人とも思わない考え方と行動は、障がい者だけでなく、社会的弱者に対するヘイトクライム（差別意識に基づく虐待行為）です。

殺害された19人の氏名について、ご遺族からの要望があって非公表となったとの報道がなされました。そこには、今なお障がい者に対する社会の差別、偏見に苦しむ家族の姿があり、まさに、障がいは社会の方にあると考えます。

<中略>

私たち長野県社会福祉士会は、様々な関係機関・団体等と連携しながら、人間の尊厳を尊重するという意識

を、社会の隅々まで浸透させ共有し、障がいがあっても差別されない共生社会の実現を目指して取り組みます。

平成28年7月29日

公益社団法人長野県社会福祉士会
 会長 三村仁志

※会長声明の全文については、長野県社会福祉士会ホームページに掲載しております。

— 障がい者差別解消セミナー —

本年4月障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障がいを理由とする差別の解消を推進することを目的とした「障害者差別解消法」が施行されました。

やまゆり園で殺害された19人の氏名が非公表となり、今なお障がい者に対する社会の差別、偏見に苦しむ家族の姿があることを物語っています。本会では長野県から委託を受けて標記セミナーを開催します。

日時：平成28年12月15日(木) 13：00～16：00
会場：須坂市メセナホール
内容：講演&シンポジウム
講師：尾上浩二氏（DP I 日本会議副議長）

「災害派遣福祉チーム（DWA T）の立ち上げを目指して」 災害福祉支援フォーラムを開催（7月23日、松本市）

（主催：長野県社会福祉士会、長野県介護福祉士会、長野県介護支援専門員協会、長野県精神福祉士協会、長野県医療社会事業協会／共催：長野県社会福祉協議会／後援：長野県、長野県看護協会）

フォーラムは、ソーシャルワーカーデー企画として、本会をはじめとする福祉専門職5団体が主催。各団体関係者等70名が参加し、5団体の連携により、DWA Tなど長野県にあった仕組みづくりを進めていく必要性を共有しました。

岩手県災害派遣福祉チーム（DWA T）の誕生



都築光一教授

★DWA T（Disaster Welfare Assistance Team）とは？★

医師や看護師らが被災現場などで活動する災害派遣医療チーム（DMAT）を参考にした造語。相談、介護など福祉職の混合チームを被災地に派遣し、ニーズを把握し、初期対応や継続的な支援につなげる仕組み。

東北福祉大学の都築光一教授（東日本大震災当時、岩手県立大学勤務）が講演。医療や保健師は外部支援を受け入れる仕組みがあるが、福祉専門職はどうだったのか？東日本大震災に駆けつけた福祉専門職5団体、100名へのヒアリングを実施したところ、「ボランティアに混じって活動した。」「避難所の保健師の助手になった。」など四苦八苦して活動場所を探さざるを得ない実情が明らかになりました。この調査をもとに、岩手県では、災害時の福祉専門職の外部支援についてフェーズごとにマニュアルを整理。県、県社協、福祉専門職団体、福祉事業所団体が連携して、災害派遣福祉チームを立ち上げ、研修等で市町村防災担当者との関係づくりを進めています。

パネルディスカッション、DWA Tの必要性を共有！

登壇した主催5団体とも、中央団体の募集による県外への支援者派遣の経験はあるが、県内で災害があった場合の組織的対応について、具体的なプランを整備できていない実情が確認されました。

県介護福祉士会の畠山会長は「県防災会議に参画しており、福祉避難所の整備が課題になっているが、ソフト面では何も決まっていない。私たちから提案していく必要がある。」県社会福祉士会の三村会長は「5団体の連携を基に、行政・事業所団体とも連携して災害対応の仕組みづくりを継続していこう。」と呼びかけました。



（北信地区理事 長峰 夏樹）

アンケートから

参加された方の内訳

社会福祉士	21名
介護福祉士	8名
介護支援専門員	5名
精神保健福祉士	1名
医療ソーシャルワーカー	1名
保健師	1名
無回答	14名

フォーラム全体について

よかった	41名
ふつう	3名
無回答	3名

参加者70名 回答47名

参加者の声

・とても大事な内容で、5団体が共同で開催したこと自体に大きな意義があると思います。（社会福祉士）

・新たな取り組みの一步としてのフォーラムでよかったと思います。これをきっかけにDWA Tの共通のマニュアルが作成され、各自治体が受け入れ態勢を検討していく流れになればいいと思います。（精神保健福祉士、障がい分野）

・岩手県のDWA Tは、県の事業として立ち上がっており、市町村との調整や派遣経費の負担など、県のリーダーシップが大きい。本県でもぜひ提案していく必要がある。

・神城断層地震では、ボランティアの調整で手一杯だった。支えてくれる多くの専門職が身近にいることを確認できたので、支援を受け入れていける仕組みを日ごろから作ってきたい。（社会福祉士、介護支援専門員）

・様々な専門職団体の考え、違うようで似ている話が勉強になりました。もっと時間をとってディスカッションを聞きたかった。

・各団体の動きを知ることができた。またいろいろあるが、各団体の見ている方向性をおなじということが確認できた。

・DWA Tの立ち上げが目標ではなく、機能するDWA Tとはどういうものなのかを、長野においては、しっかり協議していただきたい。多様な専門性をすり合わせることは容易ではないと思います。

「熊本地震支援活動報告～現地における専門職支援者の受け入れ～」

長野県社会福祉協議会 山崎博之



私が支援活動を行った南阿蘇村では、多くの住民が避難生活を余儀なくされてきました。一方、村内で福祉施設を運営する法人に、自宅から避難ができない要介護者や、一般の避難所では生活が困難な高齢者等からのSOSの声が届いていました。しかし、職員自身も被災しており、阿蘇大橋の崩落などで通勤できない職員がいるなど、新たに避難者を受け入れることが困難な状況にありました。

こうした中、この法人では被災直後からSNS（ソーシャルネットワークサービス）を駆使して、介護・看護のボランティア及びコーディネーターの支援を呼びかけていました。そして、支援の受け入れ先を自身の福祉施設に限らず、村内の他の福祉施設にも視点を向けたことで「みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワーク」の設立につながりました。このネットワークでは、全国に介護・看護の専門職種を募集して、村内の9つの福祉事業所のシフトに入り、専門技能を活かした活動が行えるよう調整しました。

今回の南阿蘇村での取り組みを振り返り、ポイントとして感じることは、被災地の福祉関係者自身が「体育館や自宅で大変な状況のなかでの生活を余儀なくされた多くの要介護高齢者を、全国から応援に来る介護・看護のボランティアの力を借りて支えたい」と発信し、その熱意に応じて活動を支援する人材・物的資源が集まったことです。

また、外部応援を受け入れるコーディネーターが被災地側にいることで、応援を受け入れる職員側でも「シフトにきちんと入ってくれる当にできる存在」として有効な支援になったことです。“介護・看護ボランティア”から、定着するにつれ“専門職支援者”という認識が変わったという言葉が印象的でした。

今回、介護・看護の専門職支援者の調整について報告しましたが、今後の被災地支援において、高齢者や障がい者、乳児や病人など特に配慮を要する方に対するその後の生活も視野に入れた調整を行っていくため、ソーシャルワークの視点を持って現地にてコーディネートをしていくことが必要であると感じました。

「災害福祉支援フォーラムに参加して」

私は、平成26年の長野県神城断層地震で災害ボランティアセンターの立上げや運営に携わりました。大勢の方々から応援していただいた経験から、日頃から福祉や災害支援関係者がつながれる機会があると良いなあと感じていましたので、今回関心を持って参加しました。

熊本地震の支援活動レポートや都築先生の講演、パネルディスカッションを拝聴して、熊本地震の発災からこれまでの現状を知ることができ、また、長期化する避難生活の中で、障がい者や高齢者への支援、避難所や地域の福祉ニーズの把握など、初期対応から継続的な支援につなげる福祉職の混成チームである「災害派遣福祉チーム（DWA T）」の活動が有効であったと学びました。

長野県でもDWA Tの仕組みづくりと立上げを目指して、準備が進められていると聞きます。職種の垣根を越えて日頃からつながり、有事には被災地行政等とも連携しながら助け合うことができる、そんな仕組みが実現したら、心強く素晴らしいことだと思います。一日も早い立上げを期待していますし、微力ですが私も協力できたらと思いました。とても有意義なフォーラムをありがとうございました。

（中信地区 松沢 美佳）

北信地区

勤務先 信濃町社会福祉協議会
氏名 佐藤 恵里



災害に対する考え・思い

近年、あまりにも大きな被害をもたらす災害が頻発し、私たちの暮らす長野県においても、規模の差こそあれ、さまざまな形で災害が発生しています。新潟県との県境に位置する信濃町は、この10年以内に2度も豪雪災害に見舞われました。まさか、降り積もって当たり前の雪が災害になるとは考えてもみませんでした。

地域に必要な社会資源（人的資源、施策など）とは

「自分たちの地域は自分たちが守る」と一人ひとりが考えることができる地域が、大きな資源であると思います。

安否確認体制の整備や、関係機関との連携など、いずれも平常時からのつながりが必要ではないでしょうか。

社会福祉士としての役割とは

私は社会福祉士として10年以上勤務していますが、今回の寄稿のお話をいただくまで、災害時における社会福祉士の役割を意識したことはありませんでした。しかし、相談援助の専門職である私たちは、災害時にも専門性を十分に発揮する必要があります。

災害に対する提言

信濃町では、過去の豪雪災害時に、県社会福祉協議会をはじめとする多くの皆様のご支援を受け、災害ボランティアセンターの立ち上げを行った経験があります。目の前の仕事を作業的にこなすことだけで、精一杯でした。しかし、社会福祉協議会、社会福祉士としての役割は、それだけではありません。日頃から、地域や関係機関等とのつながりを大切に、「声なき声」に耳を傾け、被災された方に寄り添い、ともに前に進んでいきたいと思っています。

中信地区

勤務先 小谷やまびこ
氏名 植田 博士



災害に対する考え・思い

2014年11月の神城断層地震の際、小谷村内の私の住む地区で避難所の運営係を務めました。わずか一週間でしたが、刻々と状況が変化していく中で、押し寄せてくる情報をいかに冷静に処理できるかが重要であるということを実感しました。これまでの人生のなかで最も密度の濃い一週間だったように思います。

地域に必要な社会資源（人的資源、施策など）とは

- ・災害の現場で対応できる人材のストック
- ・さまざまな災害パターンを想定した地域防災対策
- ・福祉避難所開設を念頭に、何らかの支援を必要とする人の情報把握

社会福祉士としての役割とは

災害は発生直後だけでなく、長期間にわたって被災者に関わっていくことになる場合が多いと思います。そういう意味では、災害がニュースで取り上げられなくなってから、むしろ社会福祉士の役割が必要とされるのだと思います。

災害に対する提言

一昨年の地震直後、消防団員として地域を巡回した際にある高齢夫婦のお宅を訪ねました。余震が続いており危険なので避難所に行くよう勧めたものの、夫が認知症で避難所に行ったら他の人に迷惑をかけるから行かない、と言われました。このお宅に限らず、避難所に来なかったのは普段から地域とのつながりが薄い人たちでした。社会福祉士としてどうあるべきかの前に、それぞれの地域の中で一住民として、普段から率先してつながりを持つことも大切なことではないでしょうか。



それぞれの地域において災害時のネットワークが求められています。
専門職が連携できる仕組みを、それぞれの地域で構築できるよう県下の社会福祉士がソーシャルアクションをします。

東信地区

勤務先 社会福祉法人大樹会
ヘルポートまるこ
氏名 塩川 桃子



災害に対する考え・思い

私は2012年2月に陸前高田市へ東日本大震災による被災地支援活動に参加しました。震災から11ヶ月経過していましたが、現地はガレキの山ばかりで、これからどう整備されていくのだろうかと感じました。災害は突然起こり、全ての物がなくなってしまう状況は恐ろしいと強く感じました。

地域に必要な社会資源（人的資源、施策など）とは

陸前高田市の地域包括支援センターの依頼にて、仮設住宅の高齢者世帯や高齢者独居のお宅へ個別訪問し、高齢者基本台帳の作成に携わりました。

高齢者世帯の仮設住宅を訪問する中で、仮設住宅の不自由さ（壁が薄い、手すりがない、お風呂が狭いなど）を訴える方や、孤独感や今後もこの生活が続くことへの不安などを話してくれる方が多かったことから、被災者に寄り添うソーシャルケアが必要であると思いました。

社会福祉士としての役割とは

震災前と後の生活がどのように変化したのか、また変化後の被災者のニーズを把握することが重要で、ニーズをキャッチできる人材や組織が必要だと感じました。またニーズを多職種、関係機関につなげることも社会福祉士の役割だと考えています。

災害に対する提言

災害は他人事ではなく、自分たちの身にも起こりうることです。支援を行うにあたって、様々な問題に直面します。対応を事前に検討していくことが、より良い活動につながると思っています。

これから自分の地域でどのような災害が起きても迅速に支援できる対策を検討していく必要があると考えています。

南信地区

勤務先 箕輪町社会福祉協議会
氏名 志賀 健一



災害に対する考え・思い

2006年7月当町を襲った豪雨災害から10年。「避難所よりも車の中の方が静か。避難所に行けば人に迷惑がかかると思って…」と、ハンディを抱えた10歳の男子と母親が、車での避難生活を余儀なくされた出来事がありました。このことが教訓となり、被災者一人ひとりに対する配慮がとても大切であると痛切に感じております。

地域に必要な社会資源（人的資源、施策など）とは

災害時、要配慮者への配慮は後回しになりがちです。住民の方は、要配慮者の方がどこに住んでいて、どんな配慮が必要なのか意外と知りません。行政機関等も限界があります。住民支えあいマップ等を活用しながら平時から要配慮者への理解者を増やす努力が必要だと考えます。また、福祉避難所との連携を平時から備えておく必要もあります。

社会福祉士としての役割とは

私は大規模災害での経験はありませんが、どんな災いでも被災者の方と一緒に悩み、一緒に考え、寄り添うことが社会福祉士にまず求められるのではないのでしょうか。

災害に対する提言

“いざ”というとき頼りになるのはご近所の力です。日頃からのご近所付き合いや見守りが、有事にも活かされます。人間関係が希薄な時代ではありますが、他人事ではありません。自分のこととして家族や地域で今どんな備えが必要なのか？ もう一度考えてみるのが大切ではないのでしょうか。その中で、地域にはハンディを持った方、共同生活を営むうえで配慮が必要な方がいることを理解し、意識を高めることが大切だと感じます。社協マンとして、災害時のみならず平時時においても「困ったときはお互い様！」と言いあえる地域づくりを目指してがんばります。

認定社会福祉士とは？ 認定社会福祉士の資格取得ルートが変わりました

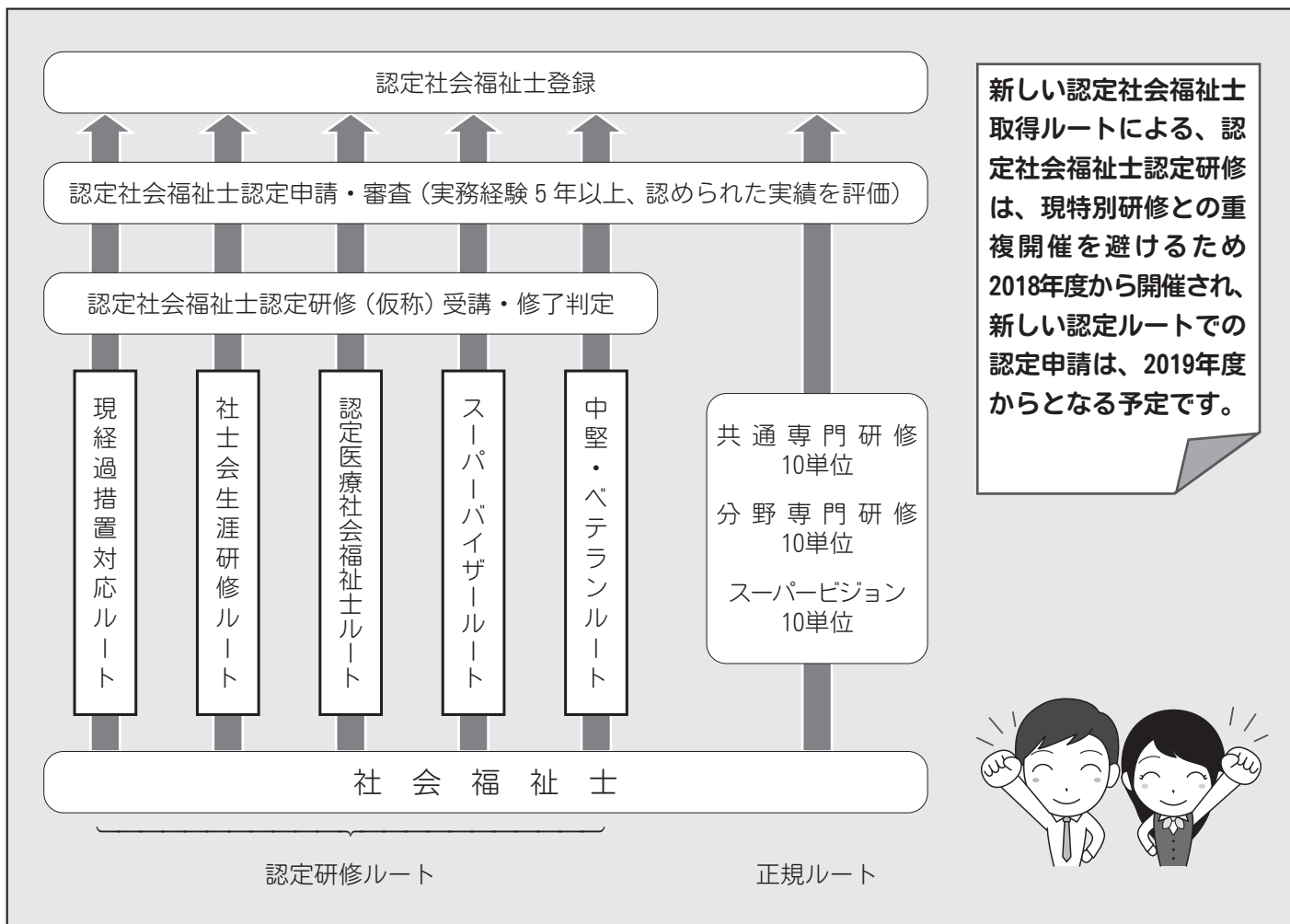
【認定社会福祉士とは】

社会福祉士は、国家試験に合格し登録をすることにより、社会福祉士の名称を用いることができます。

しかし、そのことは、高い実践力を証明しているわけではありません。認定社会福祉士制度は、研鑽を積み重ね、高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士として、その実践力を認定（担保）する制度であり、認定社会福祉士とは、その実践力を証明された社会福祉士です。

【新しい認定社会福祉士取得ルートについて】

認定社会福祉士認証・認定機構から、認定社会福祉士取得ルートとして、次のとおり「日本社会福祉士会現経過措置対応ルート」、「日本社会福祉士会生涯研修ルート」、「認定医療社会福祉士ルート」、「スーパーバイザールート」、「中堅・ベテランルート」の5種類の新しい認定社会福祉士取得ルートが提示されました。当該研修を修了し、申請要件を満たすことにより、認定社会福祉士の認定申請ができるようになります。現在では、正規ルートの他に、経過措置ルートとして3つのルートしかなかったことを考えると、申請対象者が増えることになります。皆さんも、この機会に認定社会福祉士を目指してみませんか。



お待たせしました！ 専門研修がはじまります！！

専門研修として“福祉関係者のための地域ネットワーク実践力養成研修”が10月から開催されます。認定社会福祉士取得のための研修（1単位）として認証を取得しました！また、主任介護支援専門員の皆様には法定外研修2回分として認められます。

基礎研修
42人が
修了!!

平成28年春に、県内で初めて基礎研修のⅠ～Ⅲの全課程を42の方が修了しました。基礎研修の立ち上げから関わった講師の皆さまから、修了者の方にエールと今後受講する方へのメッセージ、また修了者の方から今後の抱負をいただきました。

* 基礎研修…日本社会福祉士会の生涯研修制度は基礎課程と専門課程があり、基礎課程（基礎研修Ⅰ～Ⅲ）は**社会福祉士として必要な基礎知識を3年間かけて学ぶ入口の研修**です。その後の専門研修の受講や認定社会福祉士資格を取得するために欠かせない研修です。

修了者より

基礎研修Ⅲを修了して

医療法人慈善会 安藤病院 田村 樹里

終わりましたー！ 基礎研修！ 圏域や分野、経験年数の垣根を越えて、皆で同じ課題を3年間学びました。自分の実践を通して学び、社会福祉士としての軸をより強固なものにしていく。それも自分流ではなく、各地にいるすべてのソーシャルワーカーの仲間と共有できる軸へと。それは学校で勉強しただけでも、資格を取って働いているだけでも得られないものでした。

皆さんいくつもの役割をこなしながら、レポートを書き、研修に出席するというハードな3年間を送りました。苦楽を共にし、修了する時に結ばれていた絆は、かけがいのないものになっていました。

無事に研修修了できたのは、時に面白く、そして心を掴まれる講義をして下さった講師の先生方、職場や家族、地域の先輩社会福祉士、研修運営委員の方や同じ受講クラスの皆さん、たくさんの方にエンパワメントしていただいたおかげです。ありがとうございました。

基礎研修修了生の皆さんおめでとうございます！ ～講師からメッセージ～

森田 靖子

基礎研修で講師として関わりました。終わってほっとしています。基礎研修も会員が講師のため、5年ほど前から全国講師養成講習会に参加しましたが、研修内容も完全に決まっていなかった未知の状況でした。実施について講師の方たちと何度も打ち合わせ、研修委員会でも検討してもらいました。実施前にテキストや資料が送られてきて、県事務局からの確認に、慌てて資料に目を通し「どうだっけ？これでいい？」と確認することもあれば、そんな苦労(?)もありながらの研修の実施でした。

今後とも自己研鑽のためにも研修を受講し、認定や上級認定社会福祉士を目指すとともに、講師等を引き受けて後進の育成にも関わってくださることを期待します。

矢澤 秀樹

手探りで取り組みを始めた基礎研修講座でしたが、こうして修了生を輩出することができ、本当に皆様のご協力のおかげだったと感謝しています。

私は主に、本会に生涯学習センターが置かれるまでの事務局として、研修運営に携わりました。度重なる制度の変更等により、関係各所にご迷惑をかけたことを心苦しく思っていますが、そんな時こそ支えてくれた仲間とのつながりや、事務局職員のありがたさを実感しました。

基礎研修はジェネラリストとしての社会福祉士の基礎を学ぶことのできる大切な機会であるとともに、多様な社会福祉士とネットワークを作ることができる場です。お互いに切磋琢磨できるような、仲間づくりの場にもなっていくことを期待しています。

廣瀬 豊

2012年度から開始した基礎研修は、見切り発車ではないかと思えるほど、指導者養成もままならず、ご迷惑をおかけしたのではないかと反省しています。しかし、この基礎研修は、社会福祉士としての必要な価値・知識・技術を学び、専門職として利用者にサービスを提供するための基礎となる内容です。準備万端となりましたので始めますでは、目の前の利用者にとっては遅かったのかもしれない。利用者への最善の利益のためにスタートせざるを得なかったのだと考えるようになりました。

専門職として基礎となる研修ですが、生涯必要なくなる研修内容ではありません。基礎研修を修了した第1期の皆様、これから基礎研修の内容を基盤に活躍されることを期待しています。そして、まだ研修を受講していない会員の皆様は、専門職として最高のパフォーマンスを提供するために、できるだけ早い時期に受講して欲しいと思います。

本年も基礎研修にて多くの会員が学び、真の社会福祉士を目指し、専門性と実践力を高めています。毎春に研修受講の要綱が出されます。ぜひ、受講を検討ください。

地域で
学び合い

私の地区の学習会 (中信地区 高齢者部会)

中信地区の高齢者部会は、6月25日に特別養護老人ホーム「岡田の里」主任生活相談員の横山昌由会員を講師に迎え「高齢者支援の課題 ～見えないものを見ていく力～」をテーマに学習会を行い、高齢・障がいの施設や地域包括支援センター、病院の相談員など約10人が参加しました。

地域に住む人々は何かしらの課題を抱えているということ、「貧困」の状態へは簡単に陥ってしまうということ、社会福祉士はいかに“本物のニーズ”を見つけていくか、などの問題提起をしていただき、その後は「住み慣れた地域で生活を送ること」について、活発な意見交換を行いました。(中信地区 古田 宗範)



信州ぐるっと！！

あかね会

(安茂里介護保険事業所ネットワーク)

～ 介護保険事業所がネットワークを 組むことで出来る事～

北信地区 小林 俊之

平成20年に、長野市安茂里地区で運営している介護保険事業所で、「いつまでも住み慣れた地域で安心して生活する」ために、当時は小規模な事業所ばかりでしたが、集まることで何かできることがないだろうかと考え、当時運営をしていた事業所に声をかけネットワークをつくりました。その中でまずは事業所を知ってもらう活動として、地域の公民館を借りあかね祭りを開催。その後、安茂里地区のお祭り（アモレーフェスタ）に毎年参加、介護相談などをしてきました。また、小規模特養など新しくできた事業所にもネットワークに参加していただき、現在は2ヶ月に一度、地域のスーパーでの介護相談。事業所のスタッフ向けの合同研修会（防災や薬剤師による薬についてなど）。安茂里地区のオレンジカフェの協力（専門職の相談。必要に応じて送迎ボランティアなど）など活動を広めています。今後は安茂里地区の自治協とも連携を図り、地区でのお困りごとなども解決できるような協力体制をつくっていきます。



先日、愛媛県松山市で行なわれた「社会福祉士学会」に参加してきました。基調講演は前厚労省事務次官の村木厚子氏でした。不正事件の冤罪体験を踏まえて、将来の福祉課題を分かりやすく説明してくれました。骨子は「2025年に少子高齢化がピークを迎えて介護者が圧倒的に不足すると予想されているが、皆でアイデアを出し合い、若い世代に負担の少ない未来にしていきましょう。」という講演でした。その中で、社会福祉士に対しては、「福祉の敗北（1. 累犯障がい者の負の回転ドア、2. 若い女性性の性的搾取、3. 子どもの貧困の連鎖）」について、受け止めてほしいとエールを送っていただきました。秋口になると寒い冬を越すために万引き等を繰り返して刑務所に入る人達。夜の街で行くあてのない少女達に、その日のうちに食事と宿泊場所と仕事を提供できる性風俗業界。福祉、負けていますね。子どもの貧困については、早くから本会の学習会で問題提起されていて、当時小学生の子どもを持つ父親として関心を持っていましたが、政策介入するほど相対的貧困率がますます悪化する現実、福祉の無力さを感じています。こうした敗北を糧にして、若い会員の皆さんから、長野県ならではの社会福祉アイデアを提案していただき、それをサポートする長野県社会福祉士会でありたいと期待しています。

*長野県スクールソーシャルワーカーの弓田香織さんにバトンタッチします。

新企画

リレーエッセイ

～リレー形式の寄稿～

「福祉の敗北に向き合う」

大町市
大北社会福祉事業協会
細田 昌義



今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<https://nacs.jp/>) をご確認ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
9月3日(土)	基礎研修Ⅱ・Ⅲ(第5回)	松本市総合社会福祉センター	⑥10/2 ⑦11/5他
10月2日(日)	社会福祉士全国統一模擬試験	長野大学	
10月8日(土)	福祉関係者のための地域ネットワーク実践力養成研修(前期)	なんなんひろば(松本市南部公民館)	(後期) 2/14
10月9日(日)			
10月19日(水)	成年後見制度活用講座	ビレッジ安曇野	
10月20日(木)			
10月22日(土)	成年後見人養成研修(第4回)	松本市総合社会福祉センター	⑤10/23
10月30日(日)	基礎研修Ⅰ(第2回)	松本市総合社会福祉センター	
11月2日(水)	累犯障がい者等支援セミナー	松本市浅間温泉文化センター	講師:山本讓司氏

◎入会状況(平成28年7月末現在) *会員数:1,091名(男性会員:491名 女性会員:600名) 入会率:31.16%

編集後記

社会人になってから、友人と一緒に県内のスポット巡りや、食べ歩きを楽しんでいます。行く先々に素敵な景色と街並みがあり、魅力を感じています。皆様のお気に入りは何でしょうか。お聞かせいただくと嬉しいです。

(M. M)